

HEART NET Vol.19

岩見沢市立総合病院 広報誌

2023年9月発行

ホームページ

<http://www.iwamizawa-hospital.jp>



TAKE FREE

ご自由にお持ち帰りください

はあとやっ

写真

令和5年度 看護部新人看護職員
研修の様子



[ご挨拶]診療部長就任のご挨拶

[特集]感染管理認定看護師のご紹介

[特集]薬物療法看護認定看護師のご紹介

[レポート] Fracture Liaison Service (FLS) チーム

[クッキング] イベントメニュー／編集後記



新任のご挨拶
New



消化器内科 診療部長 大和 弘明
yamato hiroaki

2023年4月から消化器内科診療部長に就任いたしました大和 弘明と申します。2002年に大学を卒業し臨床研修を修了後、網走、北見、稚内、北海道大学病院(大学病院での胆膵疾患の臨床・博士課程での自然免疫学の研究)を経て、2015年4月、前任地の函館より当院消化器内科に着任いたしました。北海道は広大ですので地域ごとの医療事情は全く異なっております。当院に赴任後も「岩見沢市・南空知地区における地域医療の最善とは何か」を模索しながら診療を続けて参りました。

当院では新病院建設に向けた設計・計画が進行しております。現病院では最も不足している「内視鏡室」と「化学療法(抗がん剤治療)室」の設備充実を重点目標に掲げ、地域の方々に少しでも安心・安全な内視鏡検査や抗がん剤治療を受けていただけるよう準備を進めて参ります。新病院完成まで地域の皆様には大変なご不便をおかけいたしますが、もう少しの間お待ちいただければ幸いです。

現代医学は日進月歩で進化しており、単独の医師では解決困難な問題に直面する事も多くあります。医師それぞれの専門分野(胃・腸などの消化管疾患、胆道・膵臓などの胆膵疾患、化学療法(抗がん剤治療)、肝臓疾患、など)における最新の情報を共有し、より良い診療を行うため、毎朝、消化器内科医師・研修医でカンファレンスを行っております。その中で、札幌の高次医療機関(大学病院や3次医療機関など)との診療連携が必要かどうかの判断も行っております。また、診療においては院内における多職種連携のみならず、地域の医療機関や入所施設との連携も非常に重要です。今後、消化器内科の最新情報や医療安全情報を共有するニュースレターの発行(不定期)を計画しています。

治療を進める際には「ご病気についての理解」や「患者さま・ご家族の希望」が最も重要であると考えています。「このままの治療で良いのか」等の疑問をお持ちの場合には、率直なお気持ちを遠慮なくお伝えください。医師には直接お伝えしづらい場合でも、これまで述べた通り多職種で連携しておりますので、情報の共有は可能です。小さなことでも、生活面の事でも、ご病気にかかわることでお困りの際は、何なりとご相談ください。以上となりますが、今後も地域医療のさらなる向上に向け努力して参りますので、よろしくお願いいたします。



耳鼻咽喉科 診療部長 打田 武史
uchida takeshi

2022年4月から岩見沢市立総合病院に赴任しました打田武史と申します。2015～2017年にも在籍していたため、2度目の岩見沢勤務となります。

私は高校を卒業するまで札幌市で、次の10年間は東京で生活していました。工学部を卒業してエンジニアとして働いていましたが、帰郷して北海道大学に入学し2004年に医師免許を取得しています。

この2004年から「初期臨床研修制度」が始まり、すべての新人医師は2年間の初期研修が必須となりました。内科・外科・小児科・麻酔科・産婦人科・地域医療など多岐にわたる診療科で修行の機会を得ることができたのは自分にとって大変貴重な経験だと思っています。現在は総合病院の耳鼻咽喉科勤務医として、南空知地区の医療を支えるエッセンシャルワーカーの一翼を担うことになりました。医療関係者のみならず患者さまやそのご家族にもご協力・ご理解をたまわりながら、この責務を全うしたいと考えています。

当院の耳鼻咽喉科の特徴として ①対象となる患者さまが子供からお年寄りまで幅広い ②すぐに診察しなければならない症例が多い(大量の鼻出血や魚骨異物、激しい回転性めまい等) ③誰もがかかる身近な病気(のどが痛い、鼻血が出る、耳だれが出る、首が腫れる等)が多いが、その中に一定の割合で癌や特殊な疾患が存在する ④耳鼻咽喉科の救急搬送件数が多い といった事が挙げられます。

2名の常勤耳鼻科医でこれらすべての症例に対応するのは困難なため、近隣の耳鼻咽喉科クリニックと密接に連携して診療を進めています。一般的な症状はまず近隣のクリニックを受診して頂き、入院・手術や詳細な検査を必要とする患者さまをご紹介いただく事で開業医と総合病院の適切な役割分担を行っています。患者さまにはご不便をおかけすることもあるかと存じますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが市立病院は住民の皆様にとって大切なライフラインの一部であると同時に、近郊の方々の重要な勤め先ともなります。患者さまに選んでいただける病院で、なおかつ働く人たちにも選んで頂けるような病院を目指して力を尽くしたいと思います。

感染管理認定看護師

感染制御室 看護師 佐藤 隆



感染リンクスタッフ会議では院内の感染状況やアルコールの使用量を報告し、勉強会やグループワークを実施して感染対策についてみんなで考えたりしています。



ICT・AST会議では院内の感染状況についてチーム内で情報を共有し、院内の感染対策について考えています。



新人研修では新人職員・新入職者を対象に手洗いや、グローブ・マスクなどの個人防護具の着脱方法、吐物の処理方法などの実技演習を行っています。

令和4年12月に感染管理認定看護師となりました、佐藤隆と申します。

感染管理認定看護師とは、感染症の知識を基に施設に合わせた効果的な感染対策システムを構築し、患者さまや職員など当院に関わる人々を感染症から守る役割を持った看護師です。私が感染管理認定看護師を目指すきっかけになったのは、以前から興味のあった災害看護の中で、災害時は、被災地や避難所で感染症が蔓延しやすく、感染対策が重要になるという学びがあったからです。そのため避難所や被災地での感染管理が重要になると考え、感染管理認定看護師を目指そうと思いました。

現在は、感染制御室で、患者さまや職員の安全・安楽が守られるよう院内の感染管理に努めています。主に、医師・薬剤師・臨床検査技師・看護師で構成される、ICT（感染対策チーム）とAST（抗菌薬適正使用支援チーム）の一員として活動しています。ICTは、院内の感染対策の見直しなど、感染管理についての実働部隊となっています。ASTは、医師・薬剤師が中心となって、抗菌薬が適切に使用されているかを支援しています。また、感染リンクスタッフ（部署の感染委員）会議の企画・運営、院内研修、各部署の感染対策の評価を行う院内環境ラウンド、感染対策マニュアルの見直し、他病院との地域連携などの業務も行っています。特に院内の手指衛生向上に向けた取り組みや、カテーテル関連血流感染症の対策に力を入れています。

令和5年5月より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更となりました。変更に伴い院内の感染対策も徐々に緩和している最中です。

まだまだ勉強中ではありますが、地域の皆様や、患者さまが安全・安楽に療養生活を送ることができるよう努めていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願い致します。

がん薬物療法看護認定看護師

特集

外来治療室 看護師 谷岡 亜美
(がん薬物療法看護認定看護師)

この度、2022年12月にがん薬物療法看護認定看護師を取得いたしました谷岡と申します。私は2015年に入職し、新人から約8年間呼吸器内科病棟に勤務していました。病棟では主に肺がんや肺炎などの呼吸器疾患の患者さまやご家族に対してケアを行ってまいりました。治療中あるいは検査中など様々な段階のがん患者さまと関わるようになり、もっと専門的な知識や技術を持ちケアをしていきたいと考え、がん薬物療法看護認定看護師を取得いたしました。現在は外来治療室へ異動となり、今年度6月より乳がん看護認定看護師1名、看護スタッフ2名の計4名で抗がん薬治療を行う患者さま・ご家族と関わらせていただいております。



がん薬物療法看護認定看護師とは



がん薬物療法看護認定看護師とは、抗がん薬治療を受ける患者さまやご家族の身体的・精神的・社会的サポートや、がん患者さまに関わる医療スタッフへの指導などを専門的に行う役割があります。

抗がん薬治療は1910年代からがんに対して従来の殺細胞性抗がん薬が使用されるようになり、そこから研究が進み、現在では分子標的薬治療やホルモン療法、免疫チェックポイント阻害薬など、抗がん薬を使った治療は多岐に渡るようになりました。がん薬物療法看護認定看護師は、抗がん薬の安全な投与管理・取り扱い、抗がん薬治療による副作用への予防や対処方法と対応するための患者教育、治療を受ける患者さまやご家族の意思決定支援などを行っています。

今後の活動について

がんと診断され、あるいは治療中の患者さまやご家族は不安や疑問など様々あるかと思います。患者さまやご家族が抱える疑問や不安などを少しでも軽減できるよう専門的な知識や技術を活かし、岩見沢市はもとより南空知地域のがん患者さまやご家族のお力になれるよう、今後活動していきたいと考えています。

私が認定看護師を目指した一番の理由は、呼吸器内科病棟でがん患者さまやご家族と関り、患者さま自身が自分の選んだ答えになるべく後悔のない意思決定をしてもらえるよう専門的な知識・技術を身につけ、治療中になにか少しでも力になればと思います。認定看護師を目指しました。患者さまによってがんや治療に対する受け止め方は違いますが、治療中の疑問や悩みは多くの場面でみられるかと思います。私たち看護師にできることは限られているかもしれませんが、患者さまが治療を受けながらも笑顔で過ごせるよう、よりよい生活を送るために活動していきたいです。

現在は、外来治療室へ異動となり、肺がんのほか消化器系や泌尿器科系、乳腺など様々ながんを患う方と関わらせていただいております。専門的な知識を深めながら所属部署から活動を進め、のちに病院内・地域のがん薬物療法に関わるケアや指導などを行い、がん患者さまに関わる医師や看護スタッフ、薬剤師などの医療従事者ともに患者さま・ご家族を支えられるよう努めて参ります。今後ともよろしくお願いいたします。



～骨粗しょう症について～

骨の強度が低下して骨折しやすくなる骨の病気のことを「骨粗しょう症」と言います。

つまずいて手や肘をついた、くしゃみをした、転んでしまったなどわずかな衝撃で骨折してしまうことがあります。直接的に生命をおびやかす病気ではありませんが、骨粗しょう症による骨折から、歩けなくなったりしてしまい、介護が必要になってしまう可能性があります。

採血などの健康診断を受けられる方は多いと思いますが、骨粗しょう症は痛みなど自覚症状がないことが多く、定期的に骨密度検査を受けるなど、日ごろから細やかな検査が必要になってきます。

市民健康センターでも骨密度検査を実施しておりますので、ぜひお電話にてお問い合わせください。

市民健康センター:0126-32-0888(午前8時30分～午後5時)

休館日:土・日曜日、祝日および年末年始

Report



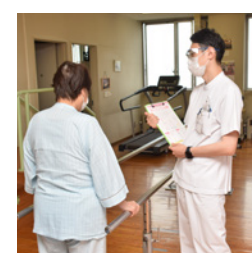
Fracture Liaison Service(FLS)とは

骨粗しょう症をベースに持つ高齢の患者さまでは、転倒により骨折し入院され、治療して退院した後に、自宅や施設などでまた転倒してしまい、再び骨折し入院を繰り返すということが少なくありません。

Fracture Liaison Service (FLS)とは、「一度骨折してしまった患者さまの、骨粗しょう症による再骨折を防ぐことを目的とする」取り組みです。骨粗しょう症に対する治療を適切に開始し、患者さまを継続的に診療していくことで、再骨折を予防するのがFLSチームの活動となります。

FLSチームは、多くの専門的な職種が参加しており、「医師」「看護師」「薬剤師」「管理栄養士」「理学療法士」「作業療法士」がいます。

これらの職種が連携し合い、さまざまな観点から患者さまが健康的な日常生活を送れるようにサポートしています。具体的には「骨粗しょう症の治療」「お薬の指導」「食生活の指導」「リハビリテーション・日常生活の指導」などを行なっています。患者さま一人ひとりに説明し、治療継続の重要性や日常生活での心がける事を理解していただけるように努めています。



また、患者さまだけではなく医師、看護師など当院で働いている職員に対して、FLSチームの医師、骨粗しょう症マネージャーの資格を持つ看護師が中心となり院内での研修会を行い、骨粗しょう症への理解を深め、治療の重要性を再確認しています。

今後はケアマネージャーなどへの研修会や患者さま向けにリハビリテーションや食生活の講演会を計画しています。日程が決まり次第病院ホームページや院内掲示にてお知らせいたしますので、ぜひお越しください。



地域で患者さまを支える

当院は急性期病院であり、手術後のリハビリテーションについては、リハビリテーションを集中して行える病院へ転院していただきます。

手術後2年間は当院に通院して頂くことを目標とし、手術後の経過と骨粗しょう症の再評価や検査をいたします。

かかりつけ医がある方や当院への通院が困難な方は、適切な治療指針を計画し、当院からの紹介として近くの診療所や病院へ通院していただくこともできます。

骨折が治癒した後も骨粗しょう症の治療を継続していただくことで、再骨折を防ぐことにつながると考えています。

他院との連携を深め、地域全体で患者さまを支える取り組みを行ないます。

構成員

医師3名(整形外科医師3名) 看護師3名(骨粗しょう症マネージャー1名) 薬剤師1名 管理栄養士1名
作業療法士1名 理学療法士1名 事務局3名

スタートアップミーティング



外来・病棟の看護師など関係部署に声をかけ、FLSチーム活動について説明。

院内研修会



医師、骨粗しょう症マネージャー(看護師)が中心となり、病院職員全体に対し院内研修を行った。

令和5年第1回FLSミーティング



新体制となり、令和5年度の活動について話し合いを行った。

行事で提供された
メニューをご紹介します!

Event Menu

医療技術部栄養科

盛り付け
のポイント

※1

OnePoint

調理師オススメ
すし酢の割合

5合に対して90ml
砂糖50g、酢90ml
塩18g、だし2.5g
1回沸騰させてから冷やす

材料

海鮮ちらし

● 米飯 170g
● すし酢(※1) 9ml
● 人参 10g
● かんぴょう 8g
● 干し椎茸 1g
● しょうゆ 3g

● 砂糖 2g
● だし 0.2g
● 錦糸玉子 15g
● いくら 10g
● ずわいがにフレーク 10g
● しその葉 0.5g

エビフライ

● エビフライ 2本
● 油 10g
● キャベツ 25g
● パックソース 1個

果物盛り合わせ

● オレンジ 1/8個
● ゴールデンキウイ 2/6個
● いちご 1個

5月12日 看護の日

近代看護の基礎を築いた「フローレンス・ナイチンゲール」の誕生日です。「国際看護師の日」と定められています。

いまもどこかで看護を必要としている人がいます。いのちをどう守っていくのか。

これからの社会をどう支えていくのか。

看護への理解や想いを多くの人へ伝えていくために。

①お皿に酢飯を盛る(平皿の場合は、中央にふんわり盛る)

②錦糸玉子→いくら→ずわいがにフレーク→しその葉の順番に盛る

彩りを気にしつつ、大きい具材から順に盛り付け、だんだん小さい具材を盛るのがコツです。

ちらし寿司の盛り付けには、「具材をちらす方法」と「具材でかたまりを作って直線的に仕切って盛り付ける方法」の2つがあります。その他にも、具材をすべてダイスに切るバラちらしも見た目が華やかで良いですね。具材の選び方や、盛り付け方、お皿をちょっと工夫するだけで、見た目がより華やかに仕上がります。皆さんもぜひ活用してみてください♪

はあとねっとVol.19をお届けします。

編集後記

夏本番! 行楽シーズンに入りました。新型コロナウイルス感染症も5類感染症へと移行し、皆さまの活動範囲も広がっていることと思います。病院横での発熱外来は継続していますが、入院患者さまとの面会制限が緩和されました。(リモート面会サービスもご利用いただけます。) また、週3回「花みずきの会」のボランティア活動も開始しています。院内での感染予防対策は継続していますが、地域の皆さまと交流を始めていきたいと思っています。今後も「はあとねっと」を通じて、地域の皆さまに新しい取り組みや診療に関する情報をお届けしていきたいと思っています。

サービス向上委員会